

消化器内科

虚血性腸炎とは

国吉病院

院長 国吉 宣俊 さん



虚血性腸炎とは、大腸の可逆性血流障害により粘膜に浮腫、出血、潰瘍などを生じる疾患です。症状は突然の腹痛と、その後続く下痢・下血が典型的な症状です。その他には嘔吐・嘔気や腹部膨満感、重症になると発熱を伴うこともあります。原因を探るに、大腸の主幹動脈には明らかな閉塞は伴わず、正確な発症機序は不明です。しかし、血流障害を来す要因として、血管則因子では動脈硬化、循環不全や小さな血管の痙縮、腸管則因子では便秘、いきみなどによる腸管内圧の上昇や腸の動きの関与な

どが挙げられ、両者が密接に関連し病態を形成していると考えられています。発症年齢は平均60歳前後でやや女性に多いとされています。ただ、動脈硬化のない40歳未満の若年者にもしばしば見られます。これら若年発症は女性に多く、便秘による腸管内圧の上昇や腸管の痙縮による相対的な虚血が要因といわれています。好発部位は左側結腸が多く、突然の左側腹部痛で下痢・下血がある場合に最も考えられる疾患です。確定診断のための検査としては、コンピュータ断層撮影(CT)や超音波検査、そして大腸内視

鏡等にて診断は容易につきます。治療は原則とし保存的治療が基本で改善します。症状、CT、内視鏡、血液の炎症反応から重症度を判断し、治療方針が決まります。軽症では必ずしも入院する必要はありませんが一般的には高齢者が多く、症状が変化する可能性があるため入院加療が望ましいとされています。発症初期は腸管の安静を保つため、絶食とし十分な補液を行います。また、重症例では抗生剤の併用も必要とされることもあります。多くは発症後3日から4日で症状が回復、食事を開始して退院となります。ただ腸管が壊疽(腐ってしまうこと)に陥った場合や、狭窄が強くなった場合に外科的手術も必要とされます。また、10%程度に再発を起こすとの報告もあり、発症後も便通には十分注意が必要とされています。

国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】消化器内科・循環器内科・消化器外科・緩和ケア内科・整形外科・脳神経外科 他